

中国語アプリ探訪(1)
～発音学習から音声付読み物まで～

中西千香

1. はじめに

KOTONOHA100号で、iPhoneでの中国語表示や中国語入力の設定方法とiPhoneアプリを使って学べる中国や中国語について紹介した。そこでは、単なるコミュニケーションツールとしてだけではなく、中国語、中国理解のツールとしてのiPhoneが使えることをみてきた。

ここではさらにiPhoneアプリの活用を通して、中国語、中国理解がいかにか可能かということを紹介したい。

外国語を話せるというときに、ただ単に単語や文法を知っていることだけでは何か物足りない。言葉の周辺にある、文化や風俗、生活習慣、今の姿を知ること、コミュニケーションをより充実させるために重要である。

これらは、学習を重ねればおのずとわかることではあるが、早いうちから意識して学ぶことで、語学力向上を早める、モチベーションを上げる効果にもつながっていくと筆者は考える。

以下では、アプリ([]内はアプリの名称)とその活用方法を紹介するが、教員として教える場合と学習者が知るという両方の角度から述べる。時に混乱しているかもしれないがどうかお許しいただきたい。

2. 中国語の方言を知りたい、聞いてみたい。



←【図1】[上海語 LITE]

筆者は、ゼロから学ぶ中国語を教える際の導入部分で、中国語には方言があり、その方言は日本語の方言のずれとは違い、互いが通じないくらいの独立した言語のようなものまで、中国語の下位分類になっているという話をする。

その時に、筆者自身がつたない上海語の音や広東語の音を聞かせていた。中国語教員が教えるのはあくまで“普通話”であり、上海語や広東語を教えるわけではないので、

たくさんの語彙や表現を知っている必要はないかもしれない。しかし、授業の中で“普通話”の1～10と広東語の1～10を紹介するだけでも学習者には新鮮で、そんなに違うのかととてもいい反応を示す。

これを iPhone アプリで聞くことができるのである。まず、一つ目に紹介するのが【図1】の[上海語 LITE]である。このアプリでは、簡単なあいさつやよくあるシチュエーションでの語彙の北京語（“普通話”）と上海語の音声を一度に聞くことができる。

広東語も聞いてみるとしよう。まず【図2】の[必要に応じ広東語 簡易版]である。これも必要な単語レベルと短いフレーズを広東語の音声とともに聞くことが可能である。もう一つのアプリは【図3】の[Lingopal Lite]である。このシリーズは中国語圏だけではなく、ヨーロッパ各国の言語など多くの言語がある。【図3】では“普通話”と広東語の対照になっているが、[設置]で対照する言語の切り替えが可能である。これも Lite 版でもそれなりのフレーズや表現の音声を聞くことができ、どれくらい違うのか、聞き比べることで、“普通話”の方言を知るきっかけにもなり、将来、上海語や広東語も学んでみたいと思うことがあるかもしれない。



【図2】 必要に応じ広東語 数字も音声で聞ける。



【図3】 Lingopal Lite

3. 中国語の発音を復習する。

中国語の発音の読み書きが可能になることは、自立した中国語学習者になるための最初の難関である。

4月から中国語を学び始めた学習者なら、そろそろ一通りの韻母（母音）と声母（子音）を学び終わり、次のステップに進んでいるころであろう。

発音は、どれだけ学習をすすめても見直す機会をもうける必要があり、実際は

ゴールがなかなかみえない。そして、ピンインに対する読みや音声を聞き取って、ピンインを書き取るということになるとまだまだ定着していない。

それでも授業は次々進んでいくので、学習者は復習する中で、ポイントを押さえていかなければならない。そこで紹介するのは、ピンインや発音を学習するためのアプリ、[Pinyin Pronunciation Tutor]、[中国語発音の基礎]、[BoPoMo Help]、[Pinyin Chart]、[中国語のピンインを学ぶ]、[Pinyin Trainer]である。

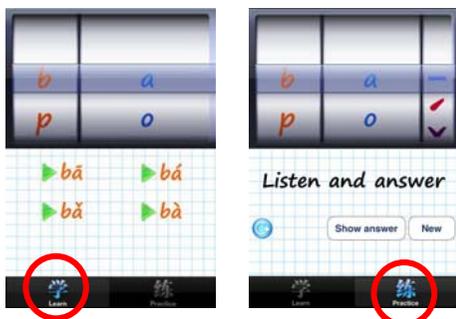
これらを一つ一つ紹介することはしないが、母音と子音をそれぞれ組み合わせたものを読んでくれるし、声調を変えたものも読んでくれる。中でも[Pinyin Chart]は、音節表をクリックすると、その中でも声調に対応する漢字があるものだけを読み上げ、それ以外は読まないという作りになっている。

確かに、私たちが教える際には、便宜上、ピンインに対する四声のパターンを読むことはある。ただ、それにあたる漢字がない場合、微妙に読みにくい。それは、実際の中国語の会話では使っていないからである。[中国語のピンインを学ぶ]アプリについても同様に、それにあたる漢字がない音声は、読んでいない。



これらアプリの力を借りて、授業で学んだことの復習やピンインの読みを見直すことができる。また、アプリを使って、聞いた音声をピンインにするというトレーニングもできる。上記の中でも[中国語のピンインを学ぶ]、[Pinyin Trainer]がそれである。【図4】の[Pinyin Trainer]は聞き取って、それがどれなのかを複数の選択肢の中から一つ選ぶ。聞き分ける能力を確かめるには有用だ。

↑【図4】[Pinyin Trainer]



また、【図5】の[中国語のピンインを学ぶ]のほうは学ぶモード(学)と練習モード(练)があり、後者のほうで聞き取って、ピンインの組み合わせ(子音、母音、声調)を選ばせるという問題が用意されており、こちらのほうが難易度は高い。

↑【図5】左側の[学]で音声を学び、右側の[练]でピンインと声調を聞き取る練習はできるが、声調符号をつける位置までは学べない。

通常の授業の際には、学習者は教員の口の形を見ることができたり、教員のほうも、音声の違いもなるべく分かりやすいように発音することがある。これらを理解できることももちろん大切なことであるが、学習をすすめるうちに口の見えない音声だけで聞き分ける能力も必要になる。

また、教える立場から言えば、これらはあくまでも個人練習用で、これらを使って学びをすすめても、やはり個々にチェックしなければならない。実際にピンインを読ませたり、書き取りをさせたりして、学習者がどこまで理解しているかみたほうがいいだろう。

4. 中国語の単語を覚える

ピンインをある程度理解できるようになったら、今度は漢字や意味を持った単語とともに読んだほうが、吸収力があがる日本人の学習者は多い。そんな学習者のためのピンインの音声とともに漢字や単語を学べるアプリを紹介したい。

【図6】の[Kids Chinese]は、子供向けではあるが、一つ一つの発音を押さえたいには有用で、丁寧な発音でピンインを学び始めた日本人学習者にもわかりやすい。

また、[新 HSK 単語帳 (初級/中級/高級)]は、学習を重ねていく上で必要になるだろう語彙を読み上げてくれる。そして、学んだあとにはどういう意味を確かめる練習問題を設けている (日本人にとっては漢字もあるので、意味も容易にわかるものについては練習にならないが)。

【図6】 [Kids Chinese]基本の文字と音声を紹介している。→



5. 成語などの語彙を学ぶ。

中国語をある程度学んでくると単なる語彙ではなく、成語なども知っていると会話がさらに広がることがわかってくる。テキストにでてくれば、覚えることも可能だが、中国人がよく使う成語をまんべんなく覚えられるかと言えばそういうわけにはいかない。

そこで紹介するのが【図7】の[Chinese Idioms]である。開くと基本的な成語がでてきて、文字をタップすると成語を読み上げてくれる。さらに開くとその成語の意味、例文、類似成語、反義成語の紹介があり、さらに【故事】をタップするとその成語の物語までが掲載されている。



【図7】[Chinese Idioms] 成語をタップすると音声でできて、🔊 をタップすると成語が持つ意味と例文がでてきて、[故事] をタップするとその物語がでてくる。

故事成語の文章は、中国語検定で言えば3級を取得した学習者または3級を目指す学習者にはちょうどよい文献である。成語とその成語ができる背景となる物語を覚えていれば、記憶もしやすいだろう。



【図8】[成语连连看] 成語の穴埋めは意外に難しい。右は[限时挑战]の画面

もう一つ紹介するのは【図8】の[成语连连看]である。開くと成語辞典や成語の穴埋めの問題をとくコーナーなどがある。穴埋めの問題については、回答後にそれぞれの成語の意味や用法などの説明もでてくる。このアプリは、そもそも外国人学習者向けではなく、ネイティブ話者向けに作られたもののようで、レベルの高い学習者にも難しい成語も入っている。

またことわざならば、[ことわざ辞書][谚语 500 句]が有用である。[ことわざ辞書]のほうは、音声と用法ともに日本語の説明があるので、学び始めた人でも使いやすい。[谚语 500 句]のほうは、ことわざとその英語訳とともに学ぶことができる。

6. 中国語の書籍や新聞記事の“有声版”をきく

さらに学習をすすめていくと、ピンインを自由に読めるようになる。しかし、自身の音声のリズムがネイティブの耳に通じるものかどうかは実はあやしい。声調通り読めているということはクリアしても中国語らしさに欠けるのである。い

いわゆる“抑扬顿挫”である。そこで、中国語の音声のリズムをつかむために多くのネイティブ音声を聞くことができる環境があるといいだろう。

そこで紹介したいのがある程度まとまった文章を聞いたり、それについて読んだりできるアプリである。

アプリを検索していると中国語学習者向けの音声付読み物やネイティブ向けの“有声读物（音声付読み物）”というものがある。童話から小説、新聞記事まで様々なレベルのものがアプリにはあるので、自分の趣味嗜好やレベルにあったものを探して、利用すると中国語が耳に慣れてくるだろう。

例えば、童話ならば、紙芝居のように音声とスクリプトを提示するものがある。

【図9】[井底之蛙]紙芝居形式で物語が進む。

【図10】[夢絵本]シリーズ



中でも[夢絵本]シリーズは、『ブレーメンの音楽隊』、『桃太郎』、『ジャックと豆の木』が英語、日本語、中国語の音声、字幕を選ぶことができる（2011年6月30日までは無料配信）。

また、その他、現代の小説など文学作品は音声なしのものであればたくさんある。例えば、[人人精品图书]、[枫林书院精选]等、小説のタイトルを直接入力したり、音声付ならば、“有声读物”と入力すると音声付きの読み物を提供するアプリに出会える（[天籁听书]等）。



また、孔子の論語の音声付（[学而篇(上)]）のもの、日々のニュースのスクリプトと音声付（【図11】の[FLNews]=NHKラジオの国際ニュースを見られるアプリ）のものもあるので、検索してもらいたい。

←【図11】[FLNews]中国語だけではなく、他の言語のニュースにも対応している。

[付記]

本稿で紹介したアプリは2011年4月現在で使用可能であったものである。アプリが削除されたことなどにより検索されない場合もあるかもしれないが、ご了承願いたい。